

新学校点描

学校前の桜が、散り始めました。時々、本校の入り口前で車を停めて桜並木を眺めている方々があります。

《K中学校》

NO.2 R3. 4. 26

担当：校長

4月20日は6時間目の時間に避難訓練を実施しました。地震を想定しました。昨年も、大雨や大雪、強風に地震など自然の驚異を感じる出来事がありました。まずは、それを想定して年度初めに避難訓練を計画したわけです。訓練の後に校長講話の時間がありましたので、全校生徒にクイズを出しました。

「もし登下校中に大地震が起きた場合、目の前に①コンビニ②派出所③ガソリンスタンドがあったら、どこに逃げ込むか？隣のひとと話してみて」と言った後、「答えは、多目的ホールのどこかに展示してあります。」と伝えて終わりました。訓練とは違って、災害はいつくるかわかりません。大切なのは正しい情報と、正しい判断を自分で選択することなのだと思います。東日本大震災のとき、中学生達がいち早く高台に駆け込んで、それを見た他の人たちも走り出したのが「釜石の奇跡」と言われています。中学生の行動が、災害のときに多くの人の行動を変えんというこゝを、教えてくれています。

25日は休日でしたが、PTA総会へのご参加ありがとうございました。新しいPTA会長にはH・Mさんが、副会長にはK・Rさん、K・Sさんが承認されました。本総会は、コロナ感染対策として3つの会場に別れてリモートにて開催しましたが、初めての試みでうまくいかなかった点についてはご容赦ください。今年も、その時々で最良の方法を見だし、工夫した中で実施できるものは実施していくように努めていきます。

先生の涙

わたしは、生まれも育ちも庄内のS市で、今は、縁があつてこの地域に住んでいます。

当時わたしの通った小学校は県で児童数が1番多い学校でした。今思うとたくさんの子どもの中で過ごしたことで多様な人との距離感を学んだような気がします。

学校から帰ると玄関にかばんをぶん投げて、再び学校へまっしぐらです。毎日、学校のグラウンドで草野球をするのが日課でした。あまり熱が入ると、夜遅くまで遊ぶのがしばしばで、次の日、先生から罰として職員室前廊下でお説教を受けさせられるんです。そんな少年時代でした。故郷を離れたこともあり、当時の草野球仲間とは、ほとんど交流はありません。



ところが先日、小学校のその頃の友人から久しぶりに手紙が届いたのです。実は、その友人は、病気で足が不自由なため車椅子なのです。当時は、それが理由でいじめられたりしたものですから、小学校5年で同じ学級になったとき、担任の先生は車椅子の彼のため、体を動かす以外の遊びをするように、草野球好きのわたし達に話をしたのです。そんな彼からの30年ぶりの手紙でした。

1年生の方で、人間関係に悩む生徒が出てきました。新しい人間関係を築いている今、まだまだ他人との距離感がつかめなようです。1学年の方で、生活アンケートをとって、1年生全員に“いじめのない学年”“誰もが公平に生活する学年”について考える集会をもちました。もし、“いじめ”が起きたとしたら、早急に対応していきます。ただ、それ以外のトラブルというのは、決して悪いことだけとは考えていません。

昔、近所の子供とも思い違いで喧嘩したり、誤解されたことの悔しさから泣いたりした、あの経験を、今の生徒たちは中学校という場で学んでいます。確かに、子どもの世界は残酷な面もありますが、本来、子どもは互いに優しさでケアし合うものだと思います。しかし現代は、本来の姿が出せなくて大人の力が必要になっていることも事実です。今日も、全ての担任の先生は、一人の一人の連絡帳を見ながら、トラブルで友人関係が壊れそうな生徒たちの関係性をじっくり修復する作業をしています。これは、中学校の教員の大切な仕事なのです。

少年時代のある日、夜遅くまで学校のグラウンドで野球をしていた私たちのもとに、血相を変えた顔つきで担任の先生がやってきました。「ああやばい。怒鳴られるな。」と思ったその時です。担任の先生は、私たちの野球風景を見て、黙って帰っていったんですね。後で、聞いたのですが、先生にとって、その光景はショックだったそうです。なぜかって、わたし達はですね、車椅子の彼も交えて、野球をしていたんです。ルールは、彼が車椅子のまま打席に入ってボールを打ったら、別の子供が代りになって走る、ただそれだけだったんですが…。

案の定、次の日、夜遅くまで遊んでいたということで、職員室前廊下に全員集合でお説教を受けました。

いつもと違っていたのは、先生が、泣きながら叱っていたことです。

きりと

ご意見・ご感想をお願いします。

メールでご意見をいただいても構いません。 Shinyatk1616n@yahoo.co.jp